

製品名: NBK (リン酸化 Thr33) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05066

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	30kDa

抗原情報

遺伝子名	BIK
別名	BIK; NBK; Bcl-2-interacting killer; Apoptosis inducer NBK; BIP1; BP4
遺伝子 ID	638.0
SwissProt ID	Q13323
免疫原	抗血清は、Thr33 のリン酸化部位周辺のヒト BIK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 18-67

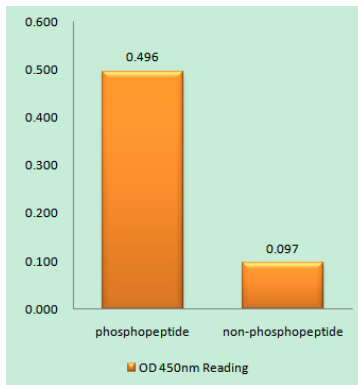
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、BID、BAK、BAD、BAX などの他の細胞死促進タンパク質と重要な BH3 ドメインを

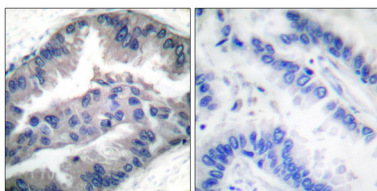
共有しており、このドメインは、アポトーシス促進活性、および BCL2 ファミリーの抗アポトーシス性タンパク質やウイルス生存促進タンパク質との相互作用に必須である。このタンパク質の活性は生存促進タンパク質の存在下では抑制されるため、抗アポトーシス性タンパク質の標的となる可能性が示唆されている。[RefSeq 提供、2011 年 9 月]、ドメイン:BIK、BID、BAK、BAD、BAX は、アポトーシス促進活性、および Bcl-2 ファミリーの抗アポトーシス性タンパク質との相互作用に、完全な BH3 モチーフを必要とする。機能:プログラム細胞死を促進する。アポトーシス抑制因子である Bcl-X(L)、BHRF1、Bcl-2、またはそのアデノウイルスホモログである E1B 19k タンパク質に結合すると、この細胞死促進活性が抑制されます。BAX とは相互作用しません。細胞内局在: 核膜周囲および細胞質膜内。

研究分野

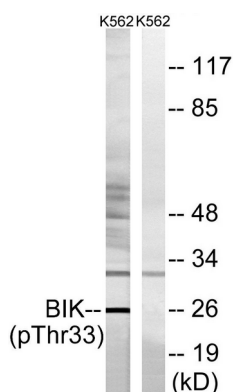
画像データ



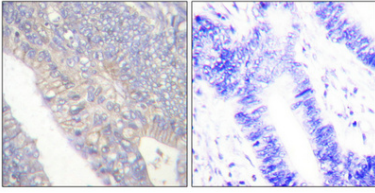
BIK (リン酸化 Thr33) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



BIK (リン酸化 Thr33) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



BIK (リン酸化 Thr33) 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。